

A. 主な動き

1. 内政

▼憲法改正

・24日、ギンプ大統領代行は、モルドバには国民投票による憲法改正が必要と発言、ヴェニス委員会の説得に努めるとコメント。

・29日、憲法裁判所は、共産党提出による憲法改正案を承認。議会は6か月の審議後、右改正案を68票の賛成で採択出来る。5月4日にはAELによる憲法改正案が審議され、同様に承認された。

▼AELの動き

・26日、ルプ民主党党首は、共産党がイメージチェンジを行えば協力が可能と発言。

・29日、ルプ民主党党首は、AEL内の見解の不一致が同盟全体に悪影響を及ぼしている、当初の合意どおりの活動が出来ないのであれば、選挙キャンペーンが開始されていると認め、それぞれ選挙に向けた活動を開始すべきと発言。

▼その他

・29日、社会団体「社会マーチ」は、政府庁舎前で暖房、電気及びガス代金の急激な値上げに対する抗議活動を実施。

2. 沿ドニエストル

・30日、アジモフ露OSCE駐在代表は、OSCE在モルドバ代表部が中立性を欠いていると非難。

3. 経済

▼農業

・27日、省庁間戦略計画委員会は、2010年11月に予定している全国農業調査の準備のための資金手当を開始。

▼その他

・28日、ゲオルギエフ氏を団長とする IMF のミッションがキシナウを訪問。2週間滞在し、1月に承認された IMF の支援合意への第一回目の査察を実施。

4. 外政

▼27～28日、ギンプ国会議長・大統領代行のルーマニア訪問

・ギンプ国会議長はバセスク・ルーマニア大統領と会談し、

モルドバのEU加盟のための戦略的・二国間パートナーシップ締結に関する共同声明、1億ドル規模の対モルドバ技術経済支援プログラムに関する合意、両国議会間協力交流プロトコル等に署名。

・ギンプ大統領代行は、ルーマニア首脳はモルドバに対し常にオープンであり、これはモルドバの経済危機克服及び欧州統合を支援するルーマニア側の意志の表れであると発言。バセスク・ルーマニア大統領は、EUのドナー国であるルーマニアはどの国よりもまずモルドバを援助する方が良く発言し、モルドバ支援の意志を改めて表明。

▼29日、フィラト首相とオルバン・ハンガリー首相の電話会談

・フィラト首相は、オルバン新首相と電話会談、二国間関係及び二国間協力に関し協議。フィラト首相はオルバン首相をモルドバに招請、訪問の具体的日程及び詳細は近日中に決定の見通し。

5. 防衛

▼モスクワにおける戦勝記念日パレード

・23日、ギンプ大統領代行は、モスクワにおける5月9日の戦勝記念日パレードに出席しないと発言するとともに、自分及び自由党はモルドバ軍人の同パレードへの参加に反対したがAELの他の3党が賛成したため大多数の決定に従う必要があったとコメント。

・オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相は、57人の沿ドニエストル軍人が戦勝記念日パレードのリハーサルのためにモスクワにいるとの情報に関し、分離主義勢力と関係することによってイベントの威信を傷つけたい者はおらず、本情報は批評するに値しないと発言。

・28日、ラブロフ露外相は、ギンプ大統領代行の一連の反露的発言について、あてこすりのために戦勝記念日を使用したと非難。

・30日、ギンプ大統領代行は、モスクワにおける5月8日のCIS非公式会合には出席するが、5月9日の戦勝記念日パレードには出席しないと発言。

B. その他の動き

4/29 (木)

・軍博物館は、軍服の展示会を開催。ソビエト連邦時代の軍服等約160着を展示。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)

4/30 (金)

・バルティ市において、戦術平和維持演習「Blue Sky 2010」が開始。300人以上の軍人が参加。